

【問題提起】

- ・住みやすいと評価されている一方で、進学に伴う大半の転出者が戻ってこない。
- ・子どもが地元の良さを知らない。
- ・ワーキングプアの状況下では人生設計ができない。
- ・地域産業としての観光分野のポテンシャルは高い。
- ・大半の観光客が日帰り。
- ・インフラ整備に地域格差がある。
- ・市街地においても少子高齢化が深刻化している。
- ・消費者、労働者共に人口規模が少なく、量販店進出や企業誘致、求人が難しい。
- ・企業誘致の効果が見えない。
- ・1次産業の疲弊や非正規雇用の増加等、社会構造に問題あり。
- ・大消費地に近いメリットを活かせば、京野菜等、一定の収益を期待できる。
- ・車なしでは生活できない。

【全体的なもの】

- ・広域で条件も大きく異なるため、地域によって特化する目標を定める。
- ・観光資源や地域特性を活かすべき。
- ・地元企業、誘致企業の発展。
- ・働く場の確保と災害に対する対応等、市民の期待に応えられる仕事興し。
- ・地域に誇りや愛着を持った住民の生活する姿を見ることで、移住者が増えるのでは。
- ・胡麻等の移住が多い地域を参考に、移住した理由等からヒントが得られるのでは。
- ・行政から財政支援を受けつつも、自分たちの力でやるという心構えが必要。
- ・祭りや婚活、農事組合による営農活動等の独自の取組みを行う地域もある。
- ・地域の小さな取組みを市全域へ広げていく。

【事業提案】

- ・共働きで子育てができる南丹市独自の制度。
- ・伝統産業の学校や新光悦村を地域の資源として活用するシステムづくり。
- ・地元雇用の目標人数を示す。観光においても、投資に対する成果を示す。
- ・地域学習を通じて進学後のUターン者増に繋げる。
- ・親子が安心して遊べる公園の整備や住居費負担の軽減等、女性が暮らしやすい環境整備。
- ・正規雇用の確保。
- ・年金改革に対応した、60歳～65歳までの雇用確保。
- ・新規就農者に対して手厚い支援。
- ・企業などに中古車を提供してもらい、転入者に貸し出す。